

## 現地研修「津久見史跡めぐり」(一) 赤八幡神社(関伽八幡宮)

吉田 勝 重

(会員 佐伯市女島)

昨年まで史談会の現地研修では、佐伯市文化財探訪や島巡り、佐伯四国八十八ヶ所巡り、佐伯三十三観音巡り等を実施してきた。

今年度からは、佐伯市の周辺地域、津久見、白杵、杵築、日出、日田等の史跡を探訪することになった。

第一回目は、四月十三日(金)に津久見市役所前に集合、津久見市内の史跡を巡った。参加人員は三十四名だった。今回の津久見巡りでは、赤八幡宮、佐伯藩口屋番所、大友宗麟墓、吉岡妙林尼墓、衛門三郎碑、放光山解脱閣寺、海岸寺を訪問した。ミカンの原木である尾崎の先祖木は場所が狭い事と雨天により中止となった。

今回はその「津久見史跡巡り」の一部を紹介する。



関伽八幡宮(赤八幡宮)前にて

赤八幡宮は津久見浦大字宮ノ前にある。祭神は応神天皇、仲哀天皇、神宮皇后の三体を祀っている。

社伝によると建久元年（一一九〇）京都の石清水八幡宮の分霊を勧請したと云う。現在放送されているNHK大河ドラマ「平清盛」の源氏の将、源頼朝が鎌倉に幕府を開く二年前の事である。

建長二年（一二五〇）三月十六日付けの「豊後國臼杵莊地頭代僧西印等寄進状」（大分県史料⑫解脫閣寺文書）この文書によると、「神社への寄進、御供田は昔からあり、この建長二年の段階に存在していた」と書かれている。文書の文面には、

寄進 津久見浦鎮守 八幡大菩薩御供田事

合參段者 在坪字やふた

右件田 自往昔以来 為御供田之由有其聞 然而中

二 此貳段成所當田之由 依被聞食之 且為上御祈

禱 且任先例所寄進之也 而則 為友永沙汰 有限

先例御供 無懈怠可令勤仕之者 依寄進之状如件

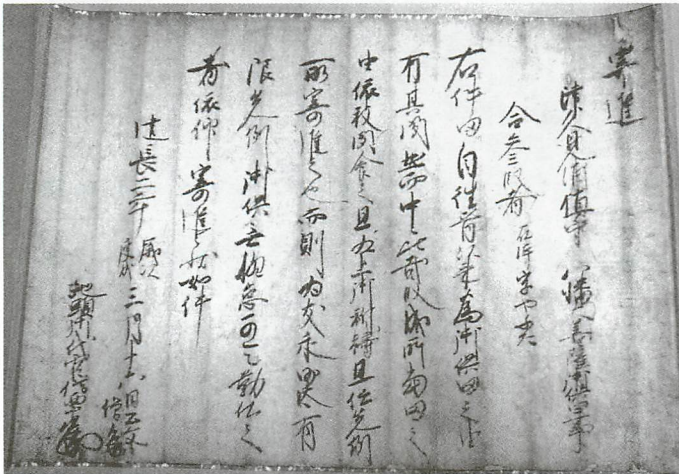
建長二年歲次庚戌三月十六日

公文僧 花押

地頭御代官僧西印 花押

と書かれている。

この文書の現物は、今回の訪問地の一つ解脫閣寺で見ることができた。



建長二年の寄進文書「津久見浦鎮守 八幡大菩薩御供田事」

また、大庄屋西郷氏先祖書の中に「天正十一年（一五八三）末年、探題大友左衛門督源義鎮公邪法行と神社仏閣破却之節、関伽八幡宮焼亡…」とある。

これは大友宗麟が仏教からキリスト教に改宗したのちに、県下の神社仏閣を焼き討ちした事を示している。

津久見市内には焼き討ちされたという寺院が数多くあったと伝えられている。佐伯市堅田の天徳寺も、もともと津久見にあり兵火に遇い現在地に移転したと伝えられている。天徳寺に当時の事を伝える文書は残されていないという。

それまでの関伽八幡宮は、大友氏の信仰篤い神社の一つであり、大友氏の旗につける竹は、関伽八幡宮の境内にある竹を使用していたと伝えられている。その竹藪の一部が境内に残されている。

昔の関伽八幡宮がどこに建てられていたのか、当時の文書類が焼失している為はつきりとはしない。

口伝で中田地区や宮山地区が有力視されている。

増村隆也氏の著「津久見の歴史」には「現在神社のある土地を宮ノ前、旧市役所から赤八幡外苑を宮の原と呼び、神社は宮山にあって大きな楠があったという。」と記載され

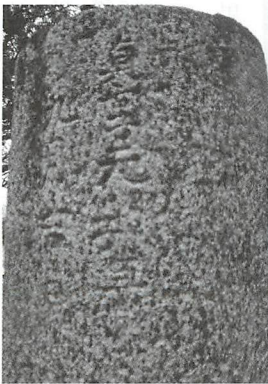
ていると言う。

天正十四年（一五八六）大友氏と島津氏との戦い、いわゆる豊薩戦争でも兵火に罹っている。

慶長六年（一六〇一）佐伯藩主毛利高政により再建され、同十年には高政より赤・青郷の総鎮守に定められている。その時から名前が関伽八幡宮から赤八幡宮に変わったと伝えられている。赤八幡宮の赤は「赤郷」の地名から付けられた。青郷は現在の青江地区を云う。

赤八幡宮神官は大庄屋の西郷氏からでている。

赤八幡宮の南側、津久見市役所側の鳥居横に、昔の鳥居の石柱が残されている。その石柱には「貞享元年（一六八四）九月甲子」の文字があり、近くの石柱には「祠官 西郷信也代」の文字が見られる。



昔の鳥居の石柱の文字  
貞享元年甲子年九月…



赤八幡宮の拝殿、神殿は八幡神社造りで、全部楠の木で造られている。赤八幡社伝や八幡社上棟文から推測すると、安政三年（一八五六）より数年かけて造られたと思われる。



赤八幡の楼門（大正5年）

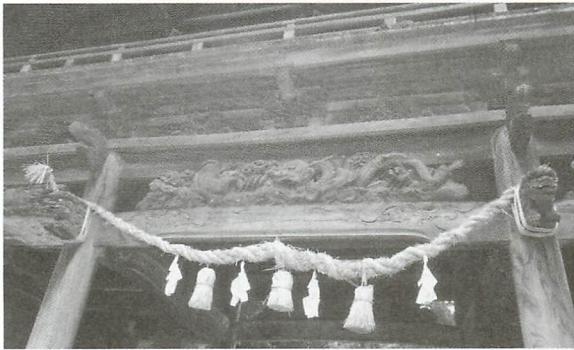
この楼門は、大正五年（一九一六）に大分県最後の宮大工と呼ばれた上杉澤吉氏が中心になって造られたもので、二階に廻縁まわりえんが設けられ、大きな屋根を支えるのに必要な「纂股かえるまた」などの複雑な木組みがある。楼門の上部にある「龍と唐獅子」の彫刻は、弥生町石丸出身の黒木徳次郎氏の作と言われている。

黒木徳次郎氏は当時「寺社の彫刻の名人」とよばれた人で佐伯養賢寺をはじめ、数多くの寺社の彫刻を手がけている。

この楼門の経費は石灰石を売った資金で調達したと言われている。

この楼門を潜った先に本殿がある。

切妻造りの内殿と外殿、神座からなってい



る。

神座のある神殿の戸には、佐伯藩主の紋「矢筈」が描かれている。神殿内には他に、奉納された品物名を記した「奉納札」や「百人一首」の額、「奉納俳諧」などが掲げられていた。城山三郎著「最後の特攻」の主人公、津久見出身の中津留達雄氏の遺影もあった。



奉納札

- ・金四両一步也 但シ小玄米
- ・銀八拾九匁
- ・米壹俵 西野内
- ・燈籠一對 西之内
- ・銀四匁四分



神殿内部に奉納された和歌絵

このように赤八幡宮は歴史的にも古く、現在も多くの人々の信仰の対象となっている。地区の中には毎年地区民総出でお詣りする所もあると云う。

この赤八幡宮の横にある尾根が、江戸時代の佐伯藩領と旧杵藩領の境であったと云う。